

## かみくげ 恐竜の里新聞

平成23年4月25日

発行…上久下恐竜の里づくり協議会

第33号

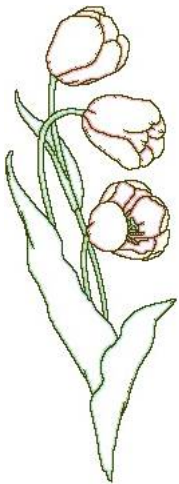
上久下  
地域づくり  
センター  
0795 78 0001丹波竜も被災された  
方々を応援しています

発電所跡近くに設置した木製丹波竜  
モニュメントに東日本大震災被災者応  
援メッセージがお目見えしました。全長  
16メートルのモニュメントの胴体部分  
に

「がんばろう東北!、  
がんばろう日本!」

の看板が取り付けられました。設置し  
た里づくり協議会のメンバーは「丹波竜  
も一億年前には数々の地球的災害を経  
験してきたはず。その丹波竜が今回の災  
害による被災者への元気づけ、勇気づけ  
メッセージを発するには大きな意味  
がある」と話していました。

なお、大震災のため中止となった元氣  
村新施設落成式当日には化石発掘体験  
を一日無料開放し、元氣村で集めた義援  
金(2万2千円)は丹波市山南支所を通  
じ現地に届けられました。



## 里の子育て奮闘記

その②

西田 浩司さん

啓子さん ご夫妻

(下滝)



西田さんご夫妻には9歳の長男から  
7歳の次男、4歳の三男と、間もなく2  
歳になる長女の4人の子ともさんがい  
て、今は啓子さんのご両親と同居した8  
人家族で過ごされています。

谷川出身の浩司さんは仕事(水道工

事)の関係で家にいる時間が少ないため、  
4人の子育てはほとんど啓子さんに任  
せられているようです。幸い、結婚当初  
からご両親と同居されており、ご両親の  
子育て支援の役割は大きく、非常に助か  
っていると話されています。

成長盛りの子どもさんたちは、食欲も  
旺盛で、お米も日に8合を2回炊くなど、  
食事の準備が大変ですと笑っておられ  
ました。

子どもが多いことは家の中が賑やか  
で楽しい。子ども同士もよく遊び、けん  
かもするが兄弟が多いことで近所の友  
達もよく遊びに来てくれる。

「おじいちゃんやおばあちゃんがよ  
く田んぼや畑に孫を連れてはいろいろ  
と体験させてくれたり、しつけの面でも  
厳しく、やさしく接してくれているところ  
などは同居しているよい点かな」とも  
話されています。「自分たちだけで4人  
の子ども育てるとしたらもっと大変だ  
ろうな」と。

「夜、こどもたちが眠って静かになる  
とほっと落ち着くが、この子らが大き  
くなって巣立っていったらこのように静  
かになるのかな? ちょっととはさびし  
くなるのかな?」と思いながらも成長を  
楽しみにしている」と浩司さんは話して  
いらっしやいました。

世間一般にこどもの数が少ない中で、  
4人の子育てするにはやっぱり、おじ  
いちゃん、おばあちゃんの存在は大きい。  
そんな恵まれた環境だから、特別の苦労  
も感じることなく安心して子育てに励  
めるのではないかとインタビューして  
いて感じました。(レポーター: S M)

## 地蔵茶屋を引退される

西垣 菊枝さん

(下滝、94才)

32年間、首切地蔵尊の「地蔵茶屋」を一人で守ってこられた西垣さんは、昨年11月に右肩骨折で入院してから体調不良が続き、3月末で茶屋を引退し、後継者に後を託されることになりました。

62歳で店を始め、木曜日の休み以外は連日、地蔵尊の参拝客に「温かいもてなしを」と頑張ってきた西垣さんですが、怪我のあとが思うように回復せず、店を続けるか、やめるかの葛藤が心の中であつたようです。「引退を決意したものの、あとのことが気掛かりだったが、心ある素晴らしい人に長年の味とおもてなしの心を受け継いでもらうことになってうれしい」と話しておられます。引退後の今の心境を聞いてみると、「今でも多くの人から電話や手紙をもらったり、家を訪ねては激励してもらったりして感謝しています。地蔵茶屋での生活は皆さんに支えられた正に樂園だった」と振り返っておられました。これからどう過ごしますかの質問には「地蔵茶屋が第2の人生としたら、これからは第3の人生を楽しみたい。やまなみ大学にも入ったし、色んなことを学びながら楽しく過ごしたい、と思うとワクワクします」と生き生きとした表情で話しておられました。

茶屋でラジオを聴いていて、西垣さんが大ファンになったNHKアナウンサーの村上信夫さん。下滝駅前の恐竜親子



の除幕式(2007年11月)で出会って以来、村上さん自身も西垣さんの大ファンになられたそうで、村上信夫さんから次のようなメッセージが届いています。西垣さんの第3の人生に役立つかも知れませんね。

「それはそれは熱い抱擁だった。それも下滝駅前の大勢の人の前だった。しかも傍らに妻がいた。それが、菊枝さんとの出会いだった。「あなたのことが大好き」と告白され、気が付いたら抱擁していた。年齢90を超えているのに少女のようなチャーミングな菊枝さん、僕もあなたのが大好きです。また、会いにくね。そしたら抱擁しようね。菊枝さん！」

NHKラジオヒタミン村上信夫」

## テリジノサウルスの歯を発見 酒井 将瑞さん(上滝)



人と自然の博物館は3月30日、第5次発掘調査で国内最古のテリジノサウルス類の歯(長さ7ミリ)を発見したと発表しました。発見したのは毎年ボランティアで発掘調査に参加している酒井将瑞さんで、小石の中から珍しい形と色をした化石を見つけ、日本では2例目の発見となりました。

テリジノサウルスは指と爪が極端に長く、獣脚類に属しますが、植物食だといわれています。この発見により、丹波竜の仲間が小学生が発見したような竜(アンキロサウルス)らを含め7種類までが判明したことになり、まさに1億年前の当地は「恐竜王国」であつたことが確実となりました。

大発見をした酒井さんは発見したときの様子を「小さいけどゴールドに見えて、ドキドキした。瞬間、いいものが出てきたと思った」と熱っぽく話していました。「見つけた化石を三枝研究員にその場で見せたら、これはすごい！獣脚類の歯です」と大変喜んでいただいたそうです。「5年間ボランティア参加してきて本当によかった」としみじみ語っておられました。

## 多目的展示施設の愛称を公募 元氣村かみくげ

5月1日にスタートする企業組合「元氣村かみくげ」は、完成したばかりの多目的展示施設の愛称を地域内外から募集します。

展示施設では発掘体験で見つかった恐竜の骨片やカエル、トカゲなど小動物の化石などを展示するほか、地元住民の美術、芸術・工芸作品の展示やセミナーなどに使用します。丹波竜の里、元氣村かみくげの手づくり感のある施設として来訪者に親しまれる名前を募っています。応募先は地域づくりセンター(電話・78・0001、ファックス・78・0819)。

ハガキ、メール、ファックスで、締切は5月末、発表は6月末です。最優秀賞(1席)に地元米30kg、優秀賞(2席)に記念品を用意。元氣村村長(土田芳草さん)は「元氣村かみくげにあつた、覚えやすい、親しみやすい名前の応募があればいいですね。応募作品は企業組合員で構成する選考委員会で決定したい」と話しています。

- 5月の予定
- ◆5月1日(日) 元氣村かみくげ 創立総会 午後1時30分 センター
  - ◆5月5日(祝) 子ども化石発掘大会(無料) 元氣村
  - ◆5月14日(土) 里づくり協議会 午後7時30分
  - ◆5月20日(金) 自治協議会理事 午後7時30分